

色でいろいろ遊ぼう！

岡崎市城北保育園(愛知県岡崎市)

[3歳児]

設定した理由

野菜スタンプ遊びの場面で、色が重なり合った部分が紫色になった。「わーきれい、赤と青が混ざると紫になるんだ」と偶発的な発見により色彩に興味をもった。この発見や美しさなどを、さまざまな活動を通して味わったり、更に新しい発見との出会いや友達同士の伝え合い、共感する気持ちの芽生えを期待し、色に関する遊びを展開していこうと考えた。



保育者の思い

様々な活動、取り組みの中で、“触れる”など様々な感覚・感性を働かせ、その中でいろいろな気付きや発見をしていけるような活動をしたい。その中で生まれてくる、子どもたちの“なぜ”や“どうして”の思いを大切に、保育士も一緒に調べたり試したりする中で、「こうするといいのかわ」「こうなってるのかわ」といった体験をして、もっとやりたい、もっと知りたいといった意欲を育てていきたい。色への興味は個人差があるが、日常の活動や遊びを通して、その子なりの「おもしろい」が感じられるように活動を展開したい。

活動内容

- ・絵の具を使って・・・野菜スタンプで遊ぼう
- ・朝顔を使って・・・色水遊びをしよう、ジュース屋さんごっこ
- ・和紙を使って・・・染紙で朝顔を作ろう
- ・おもちゃで・・・プリズムで遊ぼう



実践事例

- ・野菜スタンプで遊ぼう (きっかけ)
「わーきれい！赤と青が混ざると紫になるんだ」

事例：色水遊びをしよう



野菜スタンプを楽しんでいる時に、違う色同士が偶然重なり紫色になった。「わー！きれい、先生見て見て紫になったよ」しばらくじっと眺めて紫色のスタンプを幾度か押す。「あっ赤と青が混ざると紫になるんだ」という発見をした。この時は、まだ本児だけの発見に留まったが、後のいろいろな遊びでは、この発見が伝え合いや新しい発見へと発展していた。

みんなで種を蒔いた朝顔がきれいに咲き、5歳児がそれで色水遊びを楽しむ姿を見て、「僕たちもやりたい」という気持ちが膨らんだ。ビニール袋に思い思いに朝顔の花を入れてもみほぐし、少しずつ色付いていく様子を「ブドウ色になったよ」などと楽しんだ。「こうやるといいよ」平らな石を見つけて、ビニールが破れないように花びらを押しつぶす方法を、5歳児に教えてもらい挑戦する子もいた。

事例：ジュース屋さんごっこをしよう 「いろんな紫があるね」

ビニールにたまった色水を使って、ジュース屋さんごっこの遊びへとつなげていく。

透明カップに入れられた紫色の色水を机に並べて遊ぶ中で、「赤に近い紫」「青に近い紫」「濃い紫」「薄い紫」など同じ色のものにも違いがあることに気付いた。

かんぱーい！！



事例：染め紙遊びをしよう

「色っているいろいろあるんだな」

色水遊びを経験した子どもたちに、今度は数色の絵具での染め紙遊びに取組み、どうやったら朝顔の花のように見えるかを話し合った。提供した色は(赤、青、黄、オレンジ、白)保育者：「朝顔ってどんな色があった？」

子：「ピンクもあったよ」子：「水色もあったね」子：「紫も二つあったよね」

保育者：「じゃあ、どうしたらいろいろな色ができるかなあ」

子：「赤と青は紫だよ」子：「ピンクは赤とオレンジかな」

子：「黄色と青だと何色になるの？」

子どもの自由な発想を認め、やってみたい気持ちを十分に満足させるように色の配合や水加減は任せていくことにした。

子：「うわあ！色が染み出てきた」子：「しましま模様になったよ」

子：「くんとよく似てるね」子：「本物の朝顔みたいだね」

子：「ふたつの色でやってみようかな」

他の組み合わせはどうなるんだろうかという疑問がわいてきた子どもたちは、和紙に複数の絵具をにじませてみることによって何か変化が生まれてくるのではないかと試してみた。

子：「先生、青と黄色を混ぜたら緑になったよ」

子：「色っているいろいろあるんだな」

染め紙遊びを通して、またひとつ発見をした子どもたちであった。



みどころ

3歳児が瞳を輝かせて色水遊びを楽しんでいる様子が浮かんできます。身近な“朝顔”の花が「水の色をきれいな色にする」という不思議さやその感覚を楽しむ経験を通して、「科学する心」が育まれています。また、次第に色の濃淡や混色にも興味をもち、3歳児なりに探求が深まっている姿から、「科学する心」の質も高まっていると思われます。